

|    |      |           |
|----|------|-----------|
| 目次 | 1 頁  | 第 3 回総会速報 |
|    | 5 頁  | 執行部報告     |
|    | 11 頁 | 各支部だより    |

|     |            |
|-----|------------|
| 2 頁 | ORC 総会レポート |
| 9 頁 | 委員会報告      |

## 驚異的な賛成率で、新組織への移行きまる

反対は書面&出席者で、計56票。

書面投函 2,111名。NORC の底力現わる。

### つぎの焦点は 新組織の理事・評議員の選出へ

12 月 13 日、臨時総会がひらかれた。返送された議決行使書が 2111 通、出席者 55 名、送達され見出し出席者とされたものが 1357 名で、総会を開会。第 1 号議案「組織統合合意書(付属寄附行為案を含む)」を反対 57 票(書面で反対 55、出席で反対 2)で承認。つづいて第 2 号議案・新組織へ統合のための解散決議を反対 56 票(書面で反対 55、出席で反対 1。書面のうちあえて賛否を白票として表示しない

ものを全て否としてカウントしても否の総数 163 票)で可決、ここに新組織への移行が決定した。3、4 号議案も提案どおり可決された(3 の反対 60 票、4 の反対 72 票)。<議事録は次号>

これにより、連盟運営規則のつめを残すものの、つぎの焦点は新組織の理事・評議員の選出へと移ることとなった。連盟運営規則、新組織の理事・評議員の選出については「組織統合合意書」で基本事項が確定し

ているため、NORC サイドとしての理事・評議員の候補者をどのように選出してゆかが当面の重要課題となる。選出方法については、執行部サイドから前回の理事会、代議員会でも意見の聴取がおこなわれたが、理事、代議員とも特に発言・意向表明はなく、どんなたたき台がでてくるか密かに注目されていた。

### 公 告

1998 年 12 月 14 日

社団法人 日本外洋帆走協会 会長

戸田 邦司

- ① 1998 年第 3 回総会で、新組織への移行が決定したことに伴い、「組織統合合意書」第 8 項にもとづき、新組織発足にあたり、理事・監事及び評議員はそれぞれの協会が推薦したものををもって構成することとなっているため、新組織の理事候補・監事候補及び評議員候補を選出することとなります。
- ② 1999 年 1 月 10 日に予定する理事会・代議員会で①に必要な規則(目下、草案作成中、また JYA との共通部分を協議中)を提案し制定します。
- ③ 文部・運輸両省の指導もあり 2 月末までには①の候補を選定し、新組織新役員候補による新組織の 1999 年度事業計画・予算の策定準備に入る必要があります。
- ④ これらのことから、②の規則制定から候補者選出までの時間的余裕が短いため、1 月 10 日決定の規則の会員への周知および告示等必要な事項は、支部事務局・支部長・新代議員への送付をもって行うこととしますので、①の候補者になるうとする会員または①の候補者を推薦しようとする会員は、規則、告示等必要事項を支部事務局・支部長・新代議員を通じ頻繁に入手、確認し、遺漏なきようご留意下さい。
- ⑤ なお、①の選出に関する告示は 1999 年 1 月 11 日に行う予定です。また、支部選管委員の中から、中央選挙管理会を 3 名以上 7 名以下の陣容で形成するように準備いたします。
- ⑥ 現 JYA の有効な 4 年会員(会費納入済み会員)で且つ現 NORC 会員のうち NORC サイドからの①の候補者となるものは、立候補時または被推薦者として承諾するまでに所属の主軸足を NORC 支部におくものとしての「主軸足届け」の提出を要する(両協会のうち、片方の協会からしか立候補または候補となることができない)こととなる予定ですので、ご留意下さい。

以 上

## 発足時、NORC から、理事11名、評議員50名。これを、どう選出するかが問題……。

総会に先立つ1時間半におよぶ理事懇談会の話題ももっぱらこの選出方法についてであり、席上、たたき台として高田常務から以下のような案が示され、理事の間で異論もなかったことから、以下を中心に候補者選考規則が起草される見通しとなった。まず、新組織が法的に JYA の組織の改変という形でおこなわれるため、JYA サイドからの理事・評議員の候補者は現 JYA 理事・評議員が引き継ぐ見通しであることから、混乱をさけるために、差し支えないかぎり現 JYA での規程・慣行事項（候補者の選出時期、候補者の年齢制限、選出の方向づけ等）を尊重して両協会の選出規則の共通事項を確定すること、「財団」でありながら「社団」的運営をしてゆくために新組織をささえる構成員の意向が尊重されることを基本とすることが表明された。

つづいて、新組織発足時の理事・評議員の候補者（法的に寄附行為により規定されている手続きをとるため、あくまで選出され

るものは候補者）数について、「組織統合合意書」で確定している両協会の割り当て数に応じた発足時の役職グループの枠が発表され、同時に、選考方法案もしめされた。

理事候補者の選考方法は、会長・副会長クラス1名、専務・常務クラス1名、本部長（外洋担当）クラス1名、監事候補1名を全国区方式で、また、理事候補11名のうち4名を全国をブロックに分けた地方区から選挙で選出する。残り4名は選挙だけでの選出であると重要な専門分野にたけた人材が万べんなく選出されるとは限らず、選挙だけでの選出にこだわり過ぎると、かえって、NORC のアイデンティティの継承に支障をきたすおそれも予想されることから、この残り4名については選挙で選出された7名の候補者が大局的見地にたって候補者を推薦し、NORC 決算総会または代議員会くともに2月下旬を予定で承認をもらう方式が示された。

また、評議員候補については、支部会員100

名に1名を想定し、NORC 枠50名に満たない数は理事候補者の推薦により候補をあげ、理事推薦候補と同様に NORC 決算総会または代議員会で承認をもらう方式が示された。これらのことは、文部・運輸両省から統合時は理事数33、評議員数150をもらっているものの4年後には理事27、評議員99に削減するよう指導され、寄附行為にもその削減が明記されていることから、将来の削減数を見こした方式であることが説明された。また、任期については、理事は発足時から2年。評議員は発足時から1年とし、改選期が同年にならないように両協会共通事項として合意される見通しである。2000年以降の理事・評議員の任期はともに2年となる。

いづれにしても、JYA と共通事項をすりあわせながらの作業となる見込みで、次回 NORC 理事会・代議員会く1月10日を予定の資料発送く年末くまでには早急に形がととのってゆくこととなろう。

## 1998 年 ORC 総会レポート（詳細）

- ・ ISAF との統合問題とその背景
- ・ ORC - Club の普及と IR2000
- ・ Stephens 氏からのメッセージ
- ・ IMS99 の正式発行について

NORC 国際委員長 富田 稔

今回の ORC 総会はスペインのマヨルカ島で11月01日より07日まで開催、日本からは ORC Measurement Committee 委員として矢嶋氏が、ORC Council Member として戸田会長の代行として国際の富田が出席する事となった。

1998 年の ORC 総会において最大の課題はやはり ISAF との統合問題と、ORC が新しく導入した簡易 Handicap システムである ORC - Club の今後の普及とこの総会中にも華々しく宣伝を行っている RORC の提案する IR-2000 との関係、さらには VPP Prediction 精度を向上させる為に今後数年かけて R and D を推し進めるか否かの3点であったと言える。この3点について理解することがもっとも重要であると考えている。

### ISAF との統合に関する合意について

舵誌1月号に世界的に有名なヨットジャーナリスト ティム・ジェフェリー氏

のレポートが載っていた、1998 年 ORC がみずからの存続の望みを捨てて、ヨット界に君臨する組織 ISAF（国際セーリング連盟）についてに合併されることに合意した、更に ORC は IOR の欠陥を修正する代わりに IMS ルールこそがその答えであると主張するアメリカの知的傲慢さに屈服したと書いてある、しかし IMS は本当に失敗したのだろうか？

確かにベースとなる VPP（速度予測プログラム）は更なる改良を必要としているし PCS（パフォーマンス・カーブ・スコアリング）が手計算できないとか、艇の計測が多少複雑であるとか言う問題があるにしても ORC にカウンセラー・メンバーを送っている35カ国ではおおむね好評と言われている。しかも IMS はグランプリレーサー化していると言えないわけでもないが、だからこそデュアルパーパス・ヨットのアマチュアの乗り手の為に ORC-Club が導入されて、ORC にとってその普及はこれからなのである。カウンスルの会議で RORC の代表が説明に立ち、CHS ハン

ディキャップ登録艇は現在5500あるものの今後の見込みも必ずしも明るいものではなく、その登録料の確保の為に、どうしても IR-2000 の導入は必要な事であり是非理解を頂きたいと述べているのである。さて本題の ISAF との統合についてであるが Mr.Hans Zuiderbaan の努力によって11月08日 ORC 総会の最終日に"Letter Of Intent" が完成し合意されることとなった。（私の観測では多少 ORC の Mr.Hans Zuiderbaan と ISAF の Mr.Paul Henderson の個人交渉による所が大きく、その過程が霧に包まれている感じがしないでもない）。合意内容について ORC は ISAF の一部でありと言っているものの Offshore Yacht の International Handicapping Rules に関する制定、運営、改訂ならびに管理に全ての責任を持つ自治権を有する機関として位置づけられているわけで、軍門に下ったとか、終焉とかいった表現はいかにレベルの低い表現で、これからいかに広い範囲のヨットマンの為に組織となるかは今後の我々の課題であり、逆に希望に満ちてい

るとも言えないだろうか？

### Mr. Olin Stephens からのメッセージ

彼は世界的に有名なヨットデザイナーで、Ranger, Columbia, Constellationなどの多くのアメリカズ・カップのディフェンダー艇を設計したOlin Stephens氏に先の舵誌に載ったTim. Jeffery氏の記事を送った、私自身この問題に関し大変興味を持っており、Stephens氏が何を考えているか知りたかったのである。彼は以下のように丹念な意見を寄せてくれた。

「ORCがIMSを受け入れた時、IORには計測のルールやスコアリングシステムは複雑で多くのポイント・メジャメントを必要としたし、更にはボートに安全なスタビリティを持たせることにも失敗していた、その事自体は事実であり、私自身(Mr.Olin Stephens)もその責任を感じている、しかしそのベースとなっているVPPの基本的な技術は将来の先取りをしたといえると思う。

当時のVPPやフレキシビリティは未完成であったし我々マネジメントチームはそれを十分に理解せず、過信し過ぎていたことも認めるし、その事が英国の反感を買ったことも事実だ。シングルナンバールールは英国の状況には適していたとも言えるし、VPPシステムはソレントや他の英国の海況には不向きであったというのも事実であろう。しかし計測に問題は有っても速度を予測するシステムとしては優秀であったし、良くマネージされていたオランダやイタリアでは高い評価と成功を収めたのも事実である。

今日現在、VPPや他の進んだ科学のおかげでデザイナーは今や何が艇のスピードを上げる要素となるかを知り尽くしている。そしてスポンサーシップとプロと言われるセーラーは勝たねばならないという圧力を常に受けている。しかもあらゆる方面からの参加者が競合相手となり多くの種類のボートを生み出す結果となってしまった。この環境では現在のもしくは将来のルールについて過去とは比較にならないほどの高い要求に直面し困難を極めることとなった。

しかし、モデルテストの精度や、理論、蓄積されたデータ、さらにコンピュータの能力は上がり、IOR時代の、推測を多分に含んだ艇速の予測とは今や全く違った精度が出せるということを考えれば、更なる改良が必要ということを認めても、IMSベースのルール以上のことが考えられない。IMSフォーミュラがルールの全てといえるわけだが、実際計測の方法によりその結果が大きく違ってくることは承知のはずだ。例えば長さの測定法にしても完成され

ていない。ポイントメジャメントをせずにすむ完成したシステムが必要なのである。スコアリングの取り扱いについても大変難しいと思っている。事実IMSの不満のほとんどがそこから来ているとも言える。

予測風速や風向に対するシングルナンバールールをVPPの代用とすることは理論的には存在すると思うが、PCSや簡易化されたPLSシステムは風速や風向の変化に対応してオーシャンレースでも湾内のレースでも公平に使える唯一のルールであることを忘れてはならない。新しいルールを作るといっても言うは易い、古のよき思い出に帰る事は今更出来る話ではないのである。

私はこの意味からも、気が進まないながらもISAFの組織の力を借りてでも世界の統一したルールづくりに近づけたらと思っている。」(以上Olin Stephens)

### ORC-Clubの普及について

ORC総会の最中ISAF会議場の一角でIR-2000の発表会が行われた。余談になるがORCのカウンシル・メンバーはスペインの国王からカクテルパーティーに招待されていて、しかも招待状がISAFのOceanic Committeeのメンバーに出された為ORCのメンバーの出席はあまりなく総勢30名程度であった。

この発表会で配られた資料の中でRORCのRear CommodoreであるMr. Richard Matthews氏が解りやすく説明しているのので少し紹介したい。

「近年CHSシステムは減少の傾向にある。我々はCHSに変わるシステムを必要としているのであって新しいシステムを導入したいと考えているわけではない。世界の大半を占めるクルーザー・レーサーの為に透明性のある安い簡単な計測によるルールを必要としている。IR-2000の二つのシリーズのうちのVPPベースであるIRMについてもIMSと違って、もし1%スピナーのサイズを増やしたらレーティングがどう変わるのかすぐに自分で回答が出せるようなシステムでありたいと考えているし、ハルの計測についてもオフセットメジャメントの必要のない様なシステムでありたいと考えている」と述べている。

少なくともIRCについては1999年1月から導入されるしIRMは2000年からスタートを予定している。私はVPPベースで進められるORC-Clubと、BlackBoxでオーナーやデザイナーが全くRatingに工夫する可能性を与えられていないIRCについて、もしかしたら両立できるシステムである可能性がなくもないと考えてい

る。本当にいわれているほど計測が簡単に出来るのか、公平性はどの位あるのか、いろいろな点について技術的な考察が必要であろう。この意味において、ORC-Clubの今後の普及と発展はORCがいかにサポート体制を含めその提供するサービスの良し悪しにかかっているといえないわけではない。

### VPP 精度向上の為にR And D

繰り返すがORCの採用する、つまりIMS及びにORC-ClubのベースとなるVPP(艇速予測プログラム)はまだ完璧ではない、科学の進歩と入手データの蓄積やユーザーが見つめる抜け道に対し常に改良を加えるべきものであり、手をゆるめるわけにいかない。

1999年から2年間かけて新しい広範囲なデータを取る為に従来型のTank Test Modelを10-20を用意するには実際膨大な金がかかる。そこで最も新しいCFD(Computational Fluid Dynamics)としてAmerica's Cupにも使用されていて、コードネームSPLASHとして知られる流体力学分析システムを採用することになった。これにも問題があって現在限られたHullタイプにしか使われていない為、非常に広い範囲のHullタイプを持つIMSに適用できるか、その精度についてテストが必要であるにしても、使えるとなればIMSのHullオフセットファイルから直接のResistanceデータを計算できることになり、格段の精度向上が期待できる。

1999年中にはTank Test DataとSPLASHの相関性が確認され、2000年にはHeel状態でのDrag Incrementを含めた広い範囲のResidual Resistanceデータをそろえて新しいプロセスによる証書発行を行いたい。人材についてもAmerica's Cupの分析を終えた優秀な技術者を採用する予定である特別予算を組む必要があり、Council Member各National Authorityあたり2000ドルから10000ドルの範囲での寄付を義務づけることとなった。

### ORC Council 報告

#### 1) 人事

日本のCouncil Memberが大儀見氏から戸田氏に交代した。Ken Weller氏が退任して今後コンサルタントとしてORC-Clubの担当をする事となった。

#### 2) ISAFとORCの同意書

Council Meetingではウィットブレッド世界一周レース、America's CupをORCの活動に含めるのか、InternationalHandicap

-ping Rules に何処まで含めるかなどの議論があったが、IMS Rule、ORC-Club にもとづく Handicapping Race を ORC 活動の前提とする事で話が進んだ。

(その他はoffshore号外で既報)

### 3) Treasurer Report

・IMS 及びに Club Certificate 歳入においては IMS が 4692 でマイナス 3%、Club が 621 で 1997 年度比プラス 130%となった。  
・1999 年度歳入不足を補う為、IMS Levies を 7CHF 値上げする事に決まった。

### 4) IMS Rating Certificate 発行状況について (offshore号外で既報)

### 5) 定款変更の件について

Council Member について重要な変更があった。

要約すると各国の National Authority からノミネートされ ORC に送られる Council Member の制限が IMS 及びに ORC-Club の証書数によって 30 以上 400 未満は 1 人、400 以上 700 未満は 2 人、700 以上については 3 人ということになった。

日本は現在 IMS に 185 Levies がレポートされているから 1 名の Council を送れる、将来 800 艇の CR が ORC-Club に移行されれば、日本から 3 名の Council Member を送り出せるということになる。

### 6) IMS99 の正式発行について (重要なものだけを要約)

Heeling Moment は Total Sail Force X ZCE (Height Of Center Of Effort) により計算されるが現在の VPP においては Sail の "Flattening" を Lift Coefficient を減じることで Simulate する。強風下でない状況で Heel にとよってもたらされる ZCE の変化を Simulate していない問題がある。

よって Top Sail の Twist によって Sail の Power を逃がす事によって艇速を最適化することにより VPP 計算上の速度以上の性能を引き出すことが出来る。更にバラストを変更して、むしろ「腰の軽い」艇にすることによってハンディキャップを工夫するといったスタビリティを失ってでも有利に立つといったシステムの欠陥を修正する必要がある。実際に Windward において VPP 計算より速く走っている事が認められた。Twist Function を計算すると 1.2%GPH の差が軽量艇で予測される。

この件に関しては、Heel 角に対する VPP 上の Hydrodynamic Resistance のモデルを検証できなかった為に総会中に結論を出すことが出来ずに 12 月に入って E-Mail による裁決で決まったのである。

その他のアイテムでは Asymmetrical スピンネーカーの Rating が少し緩められること、浅いキールに対して微風の状態での Rating をゆるめること、微風下における Pitching による影響を軽減すること、クルーザーレーサーに対する Dynamic Allowance (DA) にアンカーウインドラス、冷蔵庫などの重量装備に対する Rating 上の Credit を与えることなどの修正が加えられた。

現在の GPH Handicap System において 16% Windward "Circular Random" Course Mix が使われている、しかしながら通常の Closed Course Racing においては Windward Content はもっと多い、Submission DSV-4 において ILC-40 Single Number Handicap Course において使われる 40% Windward 30% Reaching 20% Running を使用出来るようにした。よって 1999 年より使い慣れた "GPH" において ILC-AV を使い、今までの 16% Windward Course Mix を新しい名前で作るようになる事となった。

### 7) Measurement Committee

Race 中の全ての Tank は空にすべきであり飲料水として艇に積み込まれる飲料水の量、及びに搭載する燃料についても制限を設ける、Race 中における飲料水の移動、もしくは搭載、非搭載が有利、不利に働く事への配慮である、ほとんどの IMS レースは 30 マイル以下であり、その場合 "Option For National Authority To Describe In Rule" という事となった。

### 8) Marketing Committee

ORC は外から見ていてもマーケティングがうまいとは決して言えない、特に ORC-Club の導入により次の様な Support 体制の整備を提案する事となった。しかしながらその予算や常駐要員に対する結論が来年の 1 月の会議に持ち越されたことからしても、心配が残る。

ORC-Club に関するプロモーションパンフレットを作成する Sail メーカーへ情報の開示

世界の他のシステムとの比較分析の開示ホームページその他ネットワークの確立

ローカルシステムから ORC-C への変換のサポート各国に ORC System に対するコーディネーターを置いて、その連絡先とする。

ORC 内に専門の Promotion 要員を雇い常駐させる。

ORC-CLUB 導入に関しては、日本における導入が期待されており、Chairman が

らその期待が話されたぐらいである。

NORC としては技術委員会、帆走委員会を中心にこれからテスト期間を 1 年間として最終決定に望む予定であり、周到な準備に入っている。

しかしもし 800 艇に上る今の CR クラスを Convert するとなれば大変な作業が予測され、Measurers の確保、時間、もしくはは時期的に集中しないような配慮、更には Data Base の蓄積、オーナー申告に対する教育、大きな問題として予算の確保などがある。

### 9) Offshore Classes Committee

Offshore Classes Committee から名称を Offshore Classes And Events Committee とする。

### 10) Special Regulations

各国の政府機関もしくは独立組織による ORC Special Regulations に似た規定もしくはは活動が多く存在する、Committee で比較研究し、長期的な展望としては ORC Special Regulation を世界の Standard として認知されるよう研究する。

### 11) Calendar 1999 年 ORC マネージメントスケジュール

- ・1月16日 Keywest USA において Management Meeting
- ・11月 Sydney において 1999 年 総会を開催する

### ORC 会長の Hans Zuiderbaan からコメント

Olin Stephens 氏のソレントや他の英国の海況で IMS は不向きであった意見には賛成できない。オランダでもソレントと同じような強い潮が有り、我々はそれでも IMS をうまく使いこなしてきた (Zuiderbaan はオランダ)。こんな理由が IMS がだめで IR2000 でなければならないという説明に歌い上げられ、自国の事情を世界のヨット界に押し付けようとする英国のジャーナリストの傲慢さが氣にくわないとして長文の意見が来ている。次号 Offshore に掲載します。

以上

## 1998年度第5回代議員会議事録

社団法人 日本外洋帆走協会

1. 日 時 平成10年12月13日(日)

15:10~16:30

2. 場 所 国立教育会館 601号室

3. 出席者 代議員142名中 有効出席者109名  
 会場出席者(順不同) 葉谷俊哉、都築勝利、野田福美、浪川宏、安木邦貴、高野克己、米原守、大儀見薫、小田泰義、関恭一郎、関野文夫、佐藤勝、坂谷定生、島山睦郎、原田八郎、福田義一、沼田尚文、大坪明、市川徹、植松由量、妹尾達樹 以上21名  
 書面表決者(順不同)

古屋静男、方榮世、大口眞司、林岳彦、横沢眞則、平田克己、前田泰明、田中一美、萬里小路昌秀、高村宏、佐藤三次、菅野道、馬目徳男、大野健作、日向野行平、池田栄八、津野守邦、福林紀之、大蔭雅彦、脇坂菊雄、伊藤彰男、小沢美弘、田辺秀明、斉藤晴彦、宮澤秀治、畑田晴彦、野口惣治、西脇豊、大川和好、加藤直治、山崎正二郎、中里英一、田中昭愛、末松明、伊達健太郎、川村安正、早瀬次郎、小林勝海、金井寿雄、廣本賢郎、井岡裕昭、藤本直計、余田実、辻文治、阪田栄一、田村治久、村瀬保文、西啓、田中康一郎、栗林裕之、笠原文和、安久彰、上羽正男、貞松猛郎、室井誠、鈴木重行、土井収二、村野裕、門田久志、山本昌弘、馬場益弘、松本剛一、小林昇、山本善徳、識名朝典、剥岩政次、西田兼義、杉本光昭、林政幸、松永一生、柴田邦敏、白井義博、田畑勝年、渡辺行彦、大矢隆、竹内聡一、松本太一、阿部嶺男、堀田和正、二村昭治、加藤正樹、森岡聡夫、荻須文一、坂倉純二、山田邦彦、丹羽英夫、鬼頭洋二、五藤敏 以上88名

## 4. 議 案

- (1) 会費・船艇登録料等の納入の特例の承認を求める件
- (2) 1999年度暫定事業計画(案)の承認を求める件
- (3) 1999年度暫定予算(案)の承認を求める件
- (4) 1996年度及び1997年度決算報告書の訂正について承認を求める件

## 5. 議 事

- (1) 有効出席者確認・代議員会成立15:10加藤常務理事は、代議員142名中有効出席者109名を確認し、本代議員会の成立を告げた。
- (2) 議長及び議事録署名人  
 定款第19条第2項により戸田邦司会長が議長になり、戸田議長は議事録署名人に、福田義一代議員(東京湾支部)及び都築勝利代議員(東海支部)を指名した。

## (3) 戸田会長挨拶

直前の1998年度第3回総会(臨時総会)でNORCは来年3月31日をもって解散する議決をいただいたが、NORCの解散、JSAFへの統合には、これから3月までの間に幾つかの基本的な問題について解決を図らなければなりません。今回の代議員会では、その前に取り急ぎ御承認をいただく議案を提出しています。ご審議をお願いします。

## (4) 審議状況

- (ア) 議案(1)会費・船艇登録料等の納入の特例の承認を求める件

## ◇議案内容説明◇

- (a) 1999年度の会計年度は1999年1月1日から同年3月31日迄とし、会費は特別会員、正

会員及び準会員とも3,500円にてその際併せてJSAF1999年度(1999年4月1日~2000年3月31日)会費5,500円も納入するものとする。

- (b) NORC船艇登録更新料10,000円はNORC1999年度分及びJSAF1999年度分として納入するものとする。

## ◇質疑応答◇

- (a) Q: 大坪明代議員(湘南支部)  
 NORC及びJSAF会費を納入したものの、4月からJSAF会員を退会する場合、JSAF会費はどうなるのか。

A: 高田常務理事

速やかにJSAF会員にならない旨の申告があればJSAF会費の納入は不用である。納入後の場合はNORCの清算終了後お返しする。

- (b) Q: 都築勝利代議員(東海支部)  
 NORC及びJSAF初年度の会員証はどのようになるか。

A: 高田常務理事

当面1999年度NORC会員証裏面にJSAF会員である旨表示したい。

- (c) Q: 大儀見薫代議員(三浦支部)  
 JSAFは財団法人なので社団法人NORCのような会員は存在しない。JSAFの会員とはどのようなものか。

A: 高田常務理事

理論上はJSAFの会員でなく、加盟団体の会員になり、JSAFへ加盟団体から負担金を出してもらうことになる。したがって、会員証は各加盟団体に所属していることを証すものである。実態的にはJSAFの会員であると考えられる。

A: 戸田会長

ご質問のような問題点はあるが、調査したところでは社団法人的な機構を持っている財団法人は他にも存在している。

- (d) Q: 小田泰義代議員(内海支部) NORC1999年度会費の徴集にあたって、会員に対して説得が必要な場合が予想される。

A: 尾島専務理事 高田常務理事

確かにご苦勞が予想されるが、支部会費を含めNORC会費、JSAF会費を来年早々納入するよう会員に対し強く説得願いたい。

## ◇採 決◇

賛成 105 反対 3 棄権 1 審議決定

- (イ) 議案(2)1999年度暫定事業計画(案)の承認を求める件

## ◇議案内容説明◇

1999年度(1999年1月1日~同年3月31日)暫定事業計画案について概要を説明した。

## ◇質疑応答◇

Q: 妹尾達樹代議員(内海支部)・小田泰義代議員(内海支部)

4月以降の従前の支部主催レースはどのように表示するのか。

内海支部ではポスターは1月中旬に印刷しなければ間に合わないのがある。

A: 尾島専務理事・高田常務理事

JYAと協議が必要な部分がある。早期に従

前支部の主催者名称の内容が必要な場合は、個別にJYAと協議しながら確定していきたい。新たな主催者名称を表示せず、名称変更がある旨表示するのは構わない。

## ◇採 決◇

賛成 107 反対 1 棄権 1 審議決定

- (ウ) 議案(3)1999年度暫定予算(案)の承認を求める件

## ◇議案内容説明◇

1999年度(1999年1月1日~同年3月31日)暫定予算案について概要を説明した。補足として1998年11月では収入見込みが立たなかったので計上しなかった船艇登録収入とJSAF1999年度会費は、次回審議資料には記載する旨述べた。

## ◇採 決◇

賛成 105 反対 3 棄権 1 審議決定

- (エ) 議案(4)1996年度及び1997年度決算報告書の訂正について承認を求める件

## ◇議案内容説明◇

NORCの解散が事実上目前に迫っていることから、運輸省から過去数年間の本部支部連結決算の精査が求められ、(a)(b)(c)について訂正が生じた。

- (a) 1996年度本部収支決算

1997年11月運輸省から、1996年度決算書に長期借入金42,400,000円が記載されていたが、長期借入金は運輸大臣の許可がなければ計上出来ないものであると指摘され、科目を短期借入金に変更して処理した。しかし、過去からの記録の整合を図るためには、形式的に長期借入金を返済し、短期借入金を借用したとして収支の増減決算する必要があるため訂正が生じた。

- (b) 1996年度及び1997年度関東支部収支決算  
 1995年度関東支部次期繰越収支差額が6,593,297円の大幅なマイナスであったため、1996年度に関東支部はこれを関東支部基金から補てんしたが、収支に計上していなかったことが判明し訂正が生じた。この他この2ヶ年間の帳簿の精査が行われ、入線項目に変動があり、固定資産計上を帳簿上整理の必要があったため、収支決算額の訂正が生じた。

- (c) 1997年度西内海支部収支決算

西内海支部は1997年度に2,600,000円の積立金の取崩しをして支部創立30周年記念事業を実施したが、取崩しに当たって収支計上していなかったことが判明し、収支決算額の訂正が生じた。

## ◇採 決◇

賛成 106 反対 2 棄権 1 審議決定

他に質疑意見等なく、以上で審議を終了し、1998年度第5回代議員会を終えた。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成10年12月13日

議 長 戸 田 邦 司

署名人 福 田 義 一

署名人 都 築 勝 利

## 1998年度 第10回理事会議事録

1. 日 時 平成10年11月23日(祭日)  
13:00～13:15
2. 場 所 社団法人日本外洋帆走協会  
会議室
3. 出席者 理事30名中 有効出席者28名  
(出席)古川保夫、尾島裕太郎、加藤正義、高田尚之  
(書面表決)戸田邦司、古川保夫、三井祥功、尾島裕太郎、加藤正義、高田尚之、池田栄宏、今北文夫、大谷正彦、鈴木保夫、周東英卿、野口隆司、樺葉克也、服部一良、平賀威、山本高靖、渡辺康夫、松永一生、白井義博、川端治夫、渡辺行彦、坂谷定生、小田泰義、馬場益弘、岩田行史、金井寿雄、山下文徳、松尾貴比古
4. 議 案
- (1) 新入会員の承認を求める件  
(1998年8月1日から1998年11月11日間に入会申込書を提出した104名の承認の賛否)
- (2) 1999年度暫定事業計画(案)の承認を求める件  
(1999年3月31日NORC解散を前提にした3ヶ月間の暫定事業計画の承認の賛否)
- (3) 1999年度暫定予算(案)の承認を求める件  
(1999年3月31日NORC解散を前提にした3ヶ月間の会費を3,500円として策定する暫定予算(案)の承認の賛否)
- (4) 1996年度及び1997年度決算報告書の訂正について承認を求める件  
(1996年度本部決算の訂正、1996年度及び1997年度関東支部決算の訂正及び1997年度西内海支部決算の訂正の承認の賛否)
- (5) ORCサブミッションへの提案内容について承認を求める件  
(ORCサブミッションへの提案内容について承認の賛否)
- (6) 商標登録をすることについて承認を求める件  
(「日本外洋帆走協会」及び「NORC」を商標登録することについて承認の賛否)
5. 書面表決状況
- (1) 1998年11月23日(月)13:00 古川保夫、尾島裕太郎、加藤正義、高田尚之がNORC会議室に集合し、出席者以外

の書面表決書24通を加え、有効出席者数28名で、本理事会の成立を確認した。

- (2) 戸田邦司会長の事前指名により古川保夫副会長が議長となり、古川議長は議事録署名人に尾島裕太郎専務理事、高田尚之常務理事を指名した。
- (3) 本日出席した4名の理事もそれぞれ書面表決書を提出した。
- (4) 議案賛否状況
- (ア) 議案(1) 賛成28名  
(イ) 議案(2) 賛成28名  
(ウ) 議案(3) 賛成27名 反対1名  
(エ) 議案(4) 賛成28名  
(オ) 議案(5) 賛成28名  
(カ) 議案(6) 賛成28名

よって議題(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)ともに賛成議決し、1998年度第10回理事会を終えた。

上記議事録に誤りのないことを証明し、署名押印する。

平成10年11月23日

議 長 古川 保夫

署名人 尾島裕太郎

署名人 高田 尚之

## 日本ヨット協会統合準備委員会議事録(第19回)

- 日 時 平成10年10月29日(木)  
18:30～21:00
- 場 所 NORC 会議室
- 出席者 (順不同・敬称略)
- JYA側 貝道 和昭 岩田 直幸  
栗田栄一郎 有馬 敬三
- NORC側 古川 保夫 尾島裕太郎  
加藤 正義 高田 尚之  
鈴木 保夫
- 会議はJYA貝道委員の司会によって進行された。
1. JYA側から、日本セーリング連盟寄附行為(案)に関する検討内容について次のような説明があり、審議した。
- (ア) 日本セーリング連盟寄附行為四者合意案について文部省より、運輸省側からの意見を踏まえ新たに第5章「常任理事及び常任理事会」の条項を設ける必要があるとの示唆があり、その条文内容が示された。
- 新組織の常任理事会の構想は、理事長と各本部長で構成し、外洋本部新設に伴い各本部業務との早期融合化を促進するための調整機能として考えていたが、本提示案はこの考え方から一歩飛躍した内容になっている。特に、緊急事案の議決等に関する事項の処理は寄附行為に基づく常任理事会と

なることから副会長・専務理事・常務理事等の参加が必要となる。このためには常任理事会も13人程度の構成とならざるを得なくなり、むしろ、こういう場合は臨時理事会の招集が適切と考えられる。

以上の説明に基づいて審議の結果、次の結論で合意した。重要案件はすべて理事会で処理する。組織図上から常任理事会を抹消し、本提案内容は日本セーリング連盟寄附行為に条文化しない。

ただし、各本部相互の業務調整等を行う組織は運営規則等の内部規則において規定する。

- (イ) 第36条「加盟団体等」の記述内容についてJYA側から次の修正意見の提出があった。

現在の四者合意案の第36条には、「都道府県を代表するセーリングスポーツ団体、及び外洋帆走艇団体は、本連盟の加盟団体となることができ」となっているが、単に「……外洋帆走艇団体……」とだけの記述にしておくことは、将来に次のことで混乱が起こるのではないかと懸念があるので、現段階において曖昧となる表現は避けておきたい。

これまでに合意している「外洋帆走艇団体」とは、現在の(社)日本外洋帆走協会の支部を含む包括的な組織を示すものであり、その他のクルーザー団体については今後の協議検討事項となる。また将来ワンデザインクラスとか、クラブとかの問題も今後の協議検討事項であり、これらの解釈上の問題が起こらないよう、この際「……外洋帆走艇団体……」と表現されているところを「……外洋帆走艇を統轄する団体……」に改め、このことに関しては平成15年3月31日までの期間は(社)日本外洋帆走協会の支部であるとする。

以上の修正意見に基づいて審議した結果、提議された意見どおり修正することで両者合意した。

2. 統合後の3年間の事業計画及び予算計画作成の考え方について

(ア) 3年間の事業計画については、JYA側からNORC側の意見を踏まえて作成した計画素案が提示され、検討した。討議の間、NORC側から関連事業の一部修正意見があり、これを受けた内容修正について合意があった。また、両協会の共通の事項として今後早急に「主催・共催・後援」等の意義を明確

にすることの確認がなされた。

(イ)3年間の予算計画の作成要領については、基本的には管理費に属する勘定科目は一般会計で処理するように統合し、事業費に係る勘定科目については外洋本部特別会計で処理する。この際における収入科目の取扱については、一般・特別両会計の収支バランスを考慮し適切に処理することで合意した。

### 3. 役員選出要領の基本的な考え方

理事の選出区分の考え方については、前回委員会において検討した内容に変わらないことを確認した。

理事・評議員の任期については、両者の選出にあたりそれぞれが果たすべき役割から考えると、評議員は当初段階1年、

事後2年とする。理事は当初から2年とする。ことが望ましいとの意見が出され、討議の結果合意された。このことに関してJYA側から、現行の理事選出方法から今年度末時点における理事の任期満了に差があり、内部問題として今後検討したいとの発言があった。

### 4. 東京国際ボートショーについて

JYA、NORC共同で出展(経費は出展内容に応じて折半)することとし、具体的なブースの活用、新組織PRコーナー設置要領等について引き続き検討する。

JYA側は、広報委員会が担当することになっている。本日ボートショーに係る会議に担当委員会が出席しているので、その報告を聞いて出展要領の細部を決定

したい。

### 5. その他

統合事務手続小委員会で検討中の「旗」についての状況説明並びに、寄附行為検討小委員会からの運営規則の改正問題及び「会員」の考え方等についての説明があった。

次回、統合準備委員会の開催は、11月17日(火)と予定する。

平成10年10月29日

社団法人 日本外洋帆走協会  
専務理事 尾島裕太郎  
財団法人 日本ヨット協会  
理事長 貝道 和昭

## 日本ヨット界統合準備委員会議事録(第20回)

日時 平成10年11月17日(火)

18:40 ~ 19:40

場所 岸記念体育館 504 会議室

出席者 (順不同、敬称略)

NORC側) 古川保夫、尾島裕太郎  
加藤正義、高田尚之  
鈴木保夫、児玉萬平

JYA側) 米澤 一、穂積八洲雄  
岩田直幸、栗田栄一郎  
有馬敬三、青山 篤  
今泉武伊知

(1) 会議はNORC 尾島委員の司会により進行された。

(2) 統合事務手続小委員会青山篤委員から、JSAFの連盟旗のデザイン選定経過状況について、「JSAFでは、新しい連盟旗を制定するものとし、統合事務手続小委員会でこれの検討を行った。数回の検討会を経て、旗の専門家 吹浦忠正氏の講演をいただき、さらに日本デザイン界の権威の永井一正氏に、小委員会側の基本的な考えを述べ、連盟旗(案)のデザインをしていただいた。」旨述べた。新しい連盟旗(案)が委員会に提示され、これをJSAFで使用する事に委員会合意された。

この連盟旗(案)は早急に意匠登録手続を行うことにした。これらに要した経費は両協会折半することになった。

なお、クラブバージについては今後の検討課題とし、さし当りはそれぞれの協会のクラブバージの使用を認めても良いのではないかと意見が表明された。

(3) 青山委員から、第38回東京国際ボートショー「ヨットコーナー」出展者打ち合わせ会の状況について説明があった。

本件の担当者は、当面JYA側は青山

氏と新村氏、NORC側は服部氏と西本氏で対処して来たが、今後は事務作業もあることから、両協会の事務局員も参画することになった。出展に要する経費は両協会折半することになった。

(4) NORC 尾島委員は、「NORCの解散にともない<NORC>及び<日本外洋帆走協会>を商標登録して、NORC解散後の使用権の確保を図りたい、なお、この商標登録は(財)JSAFの財産にしたい。」旨述べた。

JYA 米澤委員からも、財団の名称変更にとともに<JYA>及び<日本ヨット協会>について同様の対処をしたいと述べた。

(5) NORC 高田委員は、「1998年11月上旬スペインマヨルカ島で開催された1998年度ORC年次総会に、NORCから富田国際部会長ほか1名が出席し、会議においてISAFとORCの関係を明確にする「合意書」の調印が行われた。」旨述べた。

国際関係については、NORC側富田国際部会長とJYA側穂積委員と岩田委員間で今後連絡会を行うことになった。

(6) NORC 尾島委員は、「NORCの年内会議スケジュールは、11月23日(月、祭日)に1998年度第10回理事会(書面表決理事会)を開催し、12月13日(日)解散決議臨時総会を、同総会終了後1998年度第5回代議員会を予定どおり開催する。」旨述べた。

NORC 鈴木委員は「NORCは解散決議が可となったときは、1999年度1~3月の暫定事業計画と暫定予算の承認を第5回代議員会で求めることにしている。とくに、予算については1~3月NORC会費3,500円と、4月~2000年3月のJSAFのいわゆる会費5,500

を、来年2月ごろ併せ徴集するものとする。その際は、艇登録更新料なども併せ徴集することとしている。NORCは解散によりこのお金も清算となり、JSAFに寄附することになるが、前述のお金はあらかじめ運用財産に予定し、清算後支出ができるようにする必要がある」旨補足説明した。

(7) JYA 米澤委員は、JYAはNORCの解散決議の審議決定を受け、日程は正式決定ではないが12月19日(土)理事会を、1999年1月16日ころ評議員会を開催して、統合問題について最終決定をする予定である旨述べた。

(8) JYA 岩田委員は、JYAでは現行の協会運営規則について、統合までに改正すべき箇所を一応チェックした。近々寄附行為検討小委員会等でこれの検討を行いたい旨述べた。

(9) NORCのレーススケジュールを来年度からISAFのイヤーブックに登録することとし、NORCは12月中旬までに、1999年度レーススケジュールをJYA経由ISAFに提出することが合意された。

(10) 運輸省、文部省から求められている向こう3ヶ年の事業計画及び予算は、すでに大略の審議が行なわれているので、事務作業終了による両省への提出資料については、とくに委員会を開催して審議せず各委員に資料を事前に配布して了解を求めることになった。

(11) 次回総会委員会は平成11年1月18日以降速やかに開催するものとする。

平成10年11月17日

社団法人 日本外洋帆走協会  
専務理事 尾島裕太郎  
財団法人 日本ヨット協会  
理事長 貝道 和昭

# 1999年新代議員決定 各支部到達分より随時掲載

| 支部コード   | 会員コード    | 会 員 名   |
|---------|----------|---------|
| 東京湾支部   | A1060062 | 福 田 義 一 |
|         | A1081115 | 別 部 尚 司 |
|         | A1086046 | 野 口 隆 司 |
|         | A1088005 | 米 原 守   |
|         | A1089254 | 尾 口 一 章 |
|         | A1090004 | 足 立 利 男 |
|         | A1090062 | 矢 野 守 夫 |
|         | A2079161 | 山 本 高 靖 |
|         | A2089275 | 斉 藤 晴 雄 |
|         | A2090091 | 地 曳 源 樹 |
|         | A2091063 | 大 川 和 好 |
| 三 崎 支 部 | A1065576 | 方 栄 世   |
|         | A1071024 | 川 久 保史朗 |
|         | A1071185 | 市 村 俊 明 |
|         | A1073337 | 鳥 山 睦 郎 |
|         | A1080113 | 鈴 木 利 夫 |
|         | A1082001 | 高 村 宏   |
|         | A1082049 | 池 田 栄 宏 |
|         | A1085128 | 福 田 祐一郎 |
|         | A1086090 | 和久井 喜治郎 |
|         | A1091016 | 日向野 行 平 |
|         | A2064432 | 服 部 一 良 |
|         | A2074090 | 富 田 稔   |
|         | A2077151 | 関 恭一郎   |
|         | A2086113 | 山 中 昭 弘 |
|         | A2090252 | 近 藤 等   |
|         | A2091191 | 安 木 邦 貴 |
|         | A2093089 | 渡 邊 晋 也 |
|         | A2094048 | 中 里 英 一 |
| いわき支部   | J1091025 | 藁 谷 俊 哉 |
| 駿河湾支部   | S1070172 | 西 田 兼 義 |
|         | S1071008 | 杉 本 光 昭 |
|         | S1076029 | 松 永 一 生 |
|         | S1077019 | 柴 田 邦 敏 |
|         | S2077011 | 白 井 義 博 |
|         | S2088025 | 田 畑 勝 年 |

| 支部コード   | 会員コード    | 会 員 名   |
|---------|----------|---------|
| 東 海 支 部 | T1000100 | 渡 辺 行 彦 |
|         | T1000129 | 大 矢 隆   |
|         | T1000193 | 竹 内 聡 一 |
|         | T1000254 | 鈴 木 幹 夫 |
|         | T1000293 | 都 築 勝 利 |
|         | T1074006 | 松 本 太 一 |
|         | T1076030 | 阿 部 嶺 男 |
|         | T1079010 | 長谷川 富 延 |
|         | T1085023 | 森 岡 稔 夫 |
|         | T1085034 | 山 本 秀 紀 |
|         | T1092007 | 坂 倉 純 二 |
|         | T1093035 | 加 藤 強   |
|         | T2000167 | 山 田 邦 彦 |
|         | T2080020 | 坂 谷 定 生 |
|         | T2080034 | 河 内 道 夫 |
|         | T2082048 | 大 島 茂 樹 |
| 西内海支部   | I1000205 | 小 林 勝 海 |
|         | I1000261 | 金 井 寿 雄 |
|         | I1000321 | 野 田 福 美 |
|         | I1000400 | 井 岡 裕 昭 |
|         | I1000720 | 藤 本 直 樹 |
|         | I1000907 | 大須賀 文 生 |
|         | I2000045 | 余 田 実   |
|         | I2000102 | 阪 田 栄 一 |
|         | I2000247 | 田 村 治 久 |
|         | I2000334 | 長 浦 勝 則 |
|         | I2000368 | 立 川 敏 章 |
|         | I2000548 | 西 啓     |
| 近畿北陸支部  | K1089528 | 原 島 徹   |
|         | K1090546 | 笠 原 文 和 |
|         | K1092597 | 安 久 彰   |
|         | K1093630 | 湊 谷 勲   |
|         | K1096685 | 山 本 一 博 |
|         | K1096690 | 岡 田 清 春 |
|         | K2088517 | 猪 狩 博   |

# 委員会報告

## 計測委員会より

### ORC-CLUBの概要

技術・計測担当理事 山本 高靖

ORCより提案のあった新ハンディキャップシステムORC-CLUBについて、技術・計測委員会では調査研究中であるが、現在までに判明した概要を中間報告の形でご紹介したい。

#### その特長、VPPとオーナー申告

ORC-CLUBにはIMSのコアともいえるVPP（速度予測プログラム）が使用されている。つまり、ハルを立体的に計測しその流体力学的分析を行いその艇の速度予測を行うものである。

このことからハンディキャップシステムとしては相当精度の高いものである事が予想される。

また、証書取得の為に申込みから、証書発行までの流れの中で、原則としてメジャーによる計測が行われない事が大きな特長の一つである。申込み書類の中に艇の諸元をオーナー自ら記入するフォームがあり、リグ、セイル、プロペラ、フローテーション等のデータを記入する。

#### 日本への導入時の問題点

現在までの調査で浮上してきた問題点は上記の2点の特長に大きく係っている。

まず、VPPの使用には必然的にハルのデータ（オフセットファイル）が必要である。

IMSの計測実績のある艇種であればそのデータは得られるが、このハンディキャップシステムの対象となる事が予想されるNORC-CRの証書を持つ艇で、ハルのデータを持つ艇はそう多くない。

具体的な数字を挙げると、1998年9月現在でNORC-CRの証書発行実績の

中から艇の種類をカウントすると511艇種。その内、IMS計測実績がある等で、ハルのデータのある艇種は160である。

つまり、残り約350の艇種について、ハルのデータを作成せねばならぬ。

これは膨大な作業量である。

勿論、ORCに於いてもこのあたりは考慮されていて、各国間のデータの共用、またハルのデータの無い艇種については、ORCからライブラリを提供し、その中から近似のものを選ぶ、という手段も選択できるそうである。しかし、未だこのライブラリは完成しておらず、どの程度の精度が得られるのかは未知数である。

多数を占める国産プロダクションボートのハルデータについては、おそらく、メーカー、デザイナー諸氏に対して協力要請が必要となるであろう。

もう一つの問題点として考えられるのがオーナー申告である。

申告書のフォームに如何に正確に記入いただくか、或いは本当にそれが可能であるかどうか、現状では悲観的にならざるを得ない。

ある程度、計測の経験のあるCRのメジャーが記入を試みたところ、難問が幾つかあったそうである。

100%オーナー申告は困難が予想される。暫定的に各フリーのCRメジャー等が記入時のアドバイスするなど、精度を保ち、また実際の証書発行業務を行うオフィスの手数軽減（空欄あり、誤記入はオフィスの重労働につながる）の為に必要となる可能性がある。

#### その他

ORCから最初に来た小冊子にはIMSと同じフリーでレース可能とあった

が、これは但し書きを付けねばならない。

例えば、同じ艇がIMSとORC-CLUB両方の証書を取得すると数値に違いが出る。ORC-CLUBの方が辛目になる様プログラミングされている。

証書はヴィジュアルでおしゃれである。従来のレーティング証書は全て文字、数字であったがORC-CLUBの証書は図入りでハルには艇名、セイルにはセイルナンバーが入り、申告したスプレッター、ランナー等の数もその通りに図に記載される。

以上が現在までに調査し終えた段階での報告であるが、世界の趨勢は若干混沌としている。

グランプリルールはIMSで、という評価は暫く安定しそうであるが、その次のレベルで何を使うか、となると選択の幅は広いと言える。

このところ、普及版ハンディキャップシステムの新型発表が相次いでいる。現在検討中のORC-CLUBと競合するかなのようなIR 2000は未完成ながら普及に向けてキャンペーンを始めている。これは英仏を中心にしたCHSの改良版。

レーシングディビジョンとクルーザーディビジョンを設けるようである。

その他、アメリカップ、PHRF等々、勿論NORC-CRを継続使用するのも一つの選択肢であるのは言うまでもない。

参加艇がてまひま掛けずに楽しめ、運営側、ルール管理サイドにも大きな負担とならない、普及版ルールを求めて技術・計測委員会は今日も忙しい。

## 安全委員会より

## ORC特別規定に関する本部安全委員会全国講習会報告

本部安全委員会は特別規定検査制度の見直しと、解釈にばらつきがあるといわれるORC特別規定の全国統一解釈の確立のために以下の内容で全国講習会を開催した。今後、本講習会を特別規定に関する講習会Aと呼称し、本講習会出席者が各支部で開催する講習会を講習会Bと呼称する事とした。この講習会A、Bを公式の講習会とする事とした。特別規定検査員は年に1回は講習会AかBへの出席が義務づけられる方向で制度の見直し検討を行う事としている。

期 日 1998年11月14日～11月15日

場 所 佐島マリーナ

対 象 カテゴリー1～4

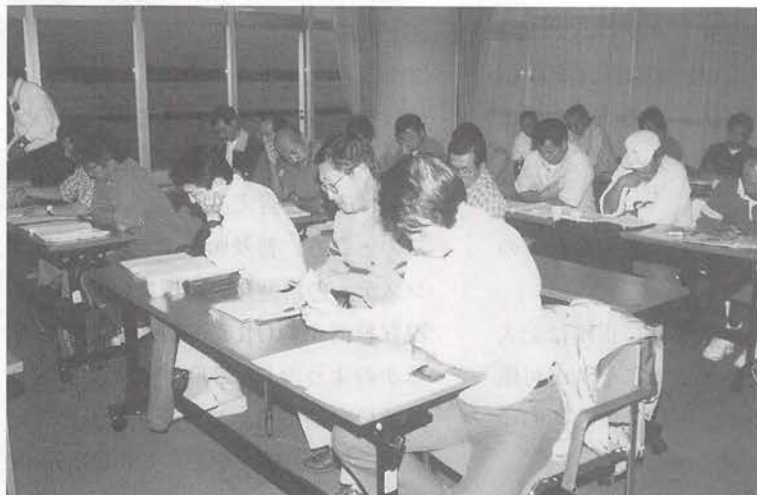
出席者 いわき支部、大洗支部、東京湾支部、三崎支部、三浦支部、湘南支部、東海支部、内海支部、西内海支部、玄海支部、南九州支部の各支部24人

## 内 容

本部安全委員長江 博人氏を講師に現検査員の人たちをスタッフとしてORC特別規定和訳(参考訳)をもとにして逐条検討を行った。疑問個所に関しては原文(英文)を参照しながら討議を行った。その後、佐島マリーナレストランにて

出席者全員で懇 親会を行い、各支部の活動状況、特別規定検査の現状などについて話し合った。その日はそのままマリーナ内のホテルに宿泊し、翌朝8時半から 第一花丸の提供を受けて福田祐一郎オーナー立ち会いののもとに全員チェックリストを見ながらカテゴリー1の検査に立ち会った。三浦支部の検査員松浦 剛氏がこの担当検査員となった。不明解のまの部分に関しては、長江安全委員(国際関係担当)からORCへ公式質問を提出する事とした。パルピットの形状、航海灯の取付け位置や予備航海灯の解釈、消火器の内容、ライフラフトなどに質問が出されて、そのうちのいくつかをORC本部に問い合わせる事とした。(既に質問書はORCに発送されている) 引き続きNORC特別規定と設備規定に関しても検討会を行い、既に矛盾を生じている部分の加除訂正の案がまとめられた。

矢嶋 滋氏からORCノベンパーミーティング出席の報告がなされて、会議内容の概要が説明された。これらの詳細と会議録は当日の検査実施の記録ビデオと共に、出席者に改めて配布をする事としている。



講習会風景

特別規定検査の講習



## 各 支 部 だ よ り

## 安全委員会より

## 帆走統括委員会議事録

本部帆走委員長 池田 栄宏

11/26、12/3 と帆走統括委員会を開催致しました。

以下に決定事項をお知らせします。

1. 全日本と名のつくレース、国際レース、等はクルー全員が会員であること。  
(全員がJSAF<新団体>のメンバーであり、半数以上が外洋本部管理の支部会員であること。)  
特別規定は ORC-1,2,3,4  
任意賠償保険(搭乗者保険含む)の加入は参加全艇に求める。全日本とは JSAF<新団体>が認定するレースであって自称全日本等は対象外
2. 支部レース、支部間に跨がるレース、IMS 艇中心のレース等はクルーの半

数以上が会員であること。(全員が会員であるレース等もあります。)(半数以上が外洋本部管理の支部会員であること。)

特別規定は ORC-1,2,3,4

任意賠償保険(搭乗者保険含む)の加入は参加全艇に求める。

3. オープンレース等はレーティング取得艇はスキッパーが会員であれば OK とする。登録艇でレーティング未取得艇の参加は他のレーティング等の使用クラスにて対処する。未登録艇はレース委員会の判断によるが、登録艇との公平を期するためレース参加費の調整にて対処する。特別規定は取得艇であることが望ましいが、各レース実

施要項にて指定。任意賠償保険(搭乗者保険含む)の加入は参加全艇に求める。

4. IMS、CR、レーティングを使用しないクラブレース等は現状は関知しないがレース主催者保険を適用する為には各支部の主催、共催等が必要な為出来るだけ各クラブと話会って下さい。

99 ジャパンカップ情報 12/13

関東4支部支部長会議が開催され4支部共催でジャパンカップを実施することが決定されました。

- ・12月中に実行委員会を組織する。
- ・2月下旬に詳細を発表する。
- ・実施時期としては10月～11月頃の予定。

## 第8回ジャパングラムヨットレース 再開!!

レース委員長 池田 栄宏

大阪ーグラム 1440 マイル

12/26 10:00 スタート

下記の3艇により7年振りにグラムレースが再開されます。

次号にはレースレポートをお送りできる予定です。

参加艇、参加クルーにエールを!!

|           |               |           |       |
|-----------|---------------|-----------|-------|
| 夢ひょうたん    | JPN 5606(67f) | 佐野 康夫オーナー | 内海支部  |
| ルナ・プロミネンス | JPN 4970(44f) | 宇都 光伸オーナー | 南九州支部 |
| 第一花丸      | JPN 4071(35f) | 福田佑一郎オーナー | 三崎支部  |

同時に KYC 主催のジャパングラムヨット歓送レースも開催されます。

## 西内海支部 SKKCUP 成績表

## IMS-A クラス

| 総合順位 | SAIL NO. | 艇名            | RACE1 | RACE2 | RACE3 |
|------|----------|---------------|-------|-------|-------|
| 1    | 5222     | SANTANA RED   | 3     | 5     | 1     |
| 2    | 5758     | MARIO EXPRESS | 1     | 1     | DNF   |
| 3    | 3280     | MINI          | 5     | 2     | DNF   |
| 4    | 5363     | BANANA        | 6     | 3     | DNF   |
| 5    | 2228     | MAKI SPIRIT   | 2     | DNF   | DNF   |

## IMS-B クラス

| 順位 | SAIL NO. | 艇名               | R1 | R2 | R2  |
|----|----------|------------------|----|----|-----|
| 1  | 5627     | GENERAL HOSPITAL | 3  | 1  | DNF |
| 2  | 5211     | BIRD             | 2  | 2  | DNF |
| 3  | 5551     | KINEKINE R       | 1  | 4  | DNF |
| 4  | 4228     | TOM BOY          | 4  | 3  | DNF |
| 5  | 2525     | MARUKO 7         | 5  | 6  | DNF |

## CR-A クラス

| 総合順位 | SAIL NO. | 艇名                   | RACE1 | RACE2 | RACE3 |
|------|----------|----------------------|-------|-------|-------|
| 1    | 5174     | TONBI                | 1     | 2     | DNF   |
| 2    | 5758     | PIED PIPER 5         | 2     | 3     | DNC   |
| 3    | 4147     | HEISEIMARU           | 6     | 1     | DNF   |
| 4    | 2535     | BSPIRIT OF HIROSHIMA | 3     | 5     | DNF   |
| 5    | 4989     | KOKUSHIMUSOU         | 4     | 4     | DNF   |

## CR-B クラス

| 順位 | SAIL NO. | 艇名            | R1  | R2 | R2  |
|----|----------|---------------|-----|----|-----|
| 1  | 3914     | KIKILALA      | 3   | 2  | 1   |
| 2  | 1633     | Harmony       | 1   | 3  | DNF |
| 3  | 5681     | Le Grand Blue | DNS | 1  | DNF |
| 4  | 4379     | lotus         | 2   | 5  | DNF |
| 5  | 5407     | VISCOUNT      | 4   | 4  | DNF |

## 関東4支部支部だより

## 16th Zushi Marina Cup 成績表

## IMS クラス

| 総合順位 | SAIL NO. | 艇 種         | 艇 名        |
|------|----------|-------------|------------|
| 1    | 3592     | N/M35       | LAHAINA VI |
| 2    | 5520     | N/M36       | CAETLA     |
| 3    | 5070     | N/M35       | SHARAKU    |
| 4    | 5302     | MUMM36      | PRESTO     |
| 5    | 5585     | COOKSON 12M | FOUNDATION |

## CR-B クラス

| 総合順位 | SAIL NO. | 艇 種     | 艇 名       |
|------|----------|---------|-----------|
| 1    | 3387     | YOK-28  | BASIC     |
| 2    | 5069     | Y30S II | シグナス      |
| 3    | 4577     | YA28S   | エルフィン     |
| 4    | 4090     | J-24    | チェントロ     |
| 5    |          | ババリア 2  | 風原 (ハエバル) |

## CR-A クラス

| 順位 | SAIL NO. | 艇 種     | 艇 名           |
|----|----------|---------|---------------|
| 1  | 3749     | YA-31S  | Starboard Jr. |
| 2  |          | SWING31 | JOY           |
| 3  | 4404     | Y31S    | ギブソン V        |
| 4  | 5537     | SLOT31  | ライア           |
| 5  | 3768     | X-402   | フレンチキッス       |

## 事務局通信

## 第38回東京国際ボートショーに NORCとJYAが共同出展に

1999年度開催の第38回東京国際ボートショーに、NORCとJYAが共同出展する運びとなりました。両協会の GOODSなどを販売する予定にしております。

## 第38回東京国際ボートショー

期 間：平成11年2月10日(水)～14日(日)

主 催：社団法人 日本舟艇工業会

会 場：東京ビックサイト東1～4ホール

## NORC頒布品一覧 NORC本部事務局

本部事務局では、下記のものを会員に頒布しております。この機会に是非ご購入ください。ボートショーにおいても販売を予定しています。

| 品 名         | 価格(送料込み)              | 仕 様                                                                        |
|-------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| エンサイン       | 5,150 円               | (ヨットの国籍旗でロイドに登録してあります。デザインは紺地四角で上1/4隅は日の丸から8条の線がでています)                     |
| クラブ旗        | 2,050 円               | (NORCのクラブの旗で、ロイドに登録してあります。デザインは、白地三角に赤の横線が中央に1本はいつています)                    |
| レース旗        | 2,050 円               | (NORC主催のレースに参加する場合に必要で、バックステアに掲げます。デザインは、白地四角に赤の縦線2本です。)                   |
| エンブレム(艇名入り) | 10,300 円              | (NORCのプレザー用のエンブレムで、簡単に取り付けられるように裏にピンがついています。艇名を入れるますので、注文品なので納入には時間がかかります) |
| クラブバージュネクタイ | 5,150 円               | (NORCのクラブバージュで、紺色にクラブバージュを刺繍で入れてあります)                                      |
| クラブバージュシール  | 510 円 (横19.5×高11.5cm) | (三角のクラブバージュのステッカー)                                                         |
| 丸型シール       | 510 円 (直径10cm)        | (中央にクラブバージュを配し、回りを NIPPON OCEAN RACINGCLUB の文字が囲んでいます)                     |
| 長方形シール      | 310 円 (横12.0×高4.5cm)  | (長方形のステッカーで、NORCの文字とクラブバージュをデザインしてあります)                                    |

注) 上記金額には送料が含まれています。複数購入の場合でも価格は同じです。

申込書を取り寄せて、合計価格の銀行振り込みか現金書留による送金をお願いします。品物の発送は入金確認後になります。

申 込 先：NORC各支部事務局または社団法人日本外洋帆走協会 本部事務局 TEL 03-3452-5812 FAX 03-3452-5815

料金振込先：住友銀行 東京公務部 普通預金 140514 社団法人 日本外洋帆走協会 本部 (住友以外の銀行では、窓口での振込申込しか出来ない場合があります)

## お詫びと訂正

offshore262号の「1998年第4回代議委員会議事録」、「1998年度第9回理事会議事録」ならびに「技術・計測委員会報告」のなかに記述の誤りがありましたので、訂正するとともにお詫び申し上げます。

誤：ORC セールメジャラー制度  
正：ORC メジャラー制度。

## 編集後記

それぞれに思いと感慨を込めて12月13日のNORC臨時総会は社団法人日本外洋帆走協会の解散を機関決定しました。これにいたる討論・会議を通じてなんとなく総論としてのヨット界統合再編成の方向は見えていましたが、愛惜の思いを込めて、あるいは考え方の違いから反対の意見を表明するために出席なさった会員の方々も居られました。こうしたさまざまな考えがあってこそ我々の外洋帆走協会でした。その総会の生々しい記録を、今号は出席できなかった会員の方々にもお伝えします。引き続き行われた代議員会で新年度予算も決定されました。今月は最後の代議員選挙も行われ来年の3月までの短い、しかし歴史的な任期の代議員諸氏が誕生しました。NORCの最後を看取り、新生日本セーリング連盟に移る為の多大な業務をこなしてゆかなくてはなりません。新しい代議員の方々宜しく願い致します。世の中の変換期と喧伝されて久しい昨今、いま一つ諸事噛み合わない観があります。高齢社会の円熟の中で、ヨットライフにも一人ひとりの生き方に合わせて息の長い遊び心で、過ごせるようなゆとりが必要です。そんなものの実現の一助となるような組織になりたいものです。残り3ヶ月、編集者も心して励みたいと思います。(N)